

**1. 掘削調査状況報告（速報）
（平成20年3月11日まで）**

〔第13回対策委員会〕

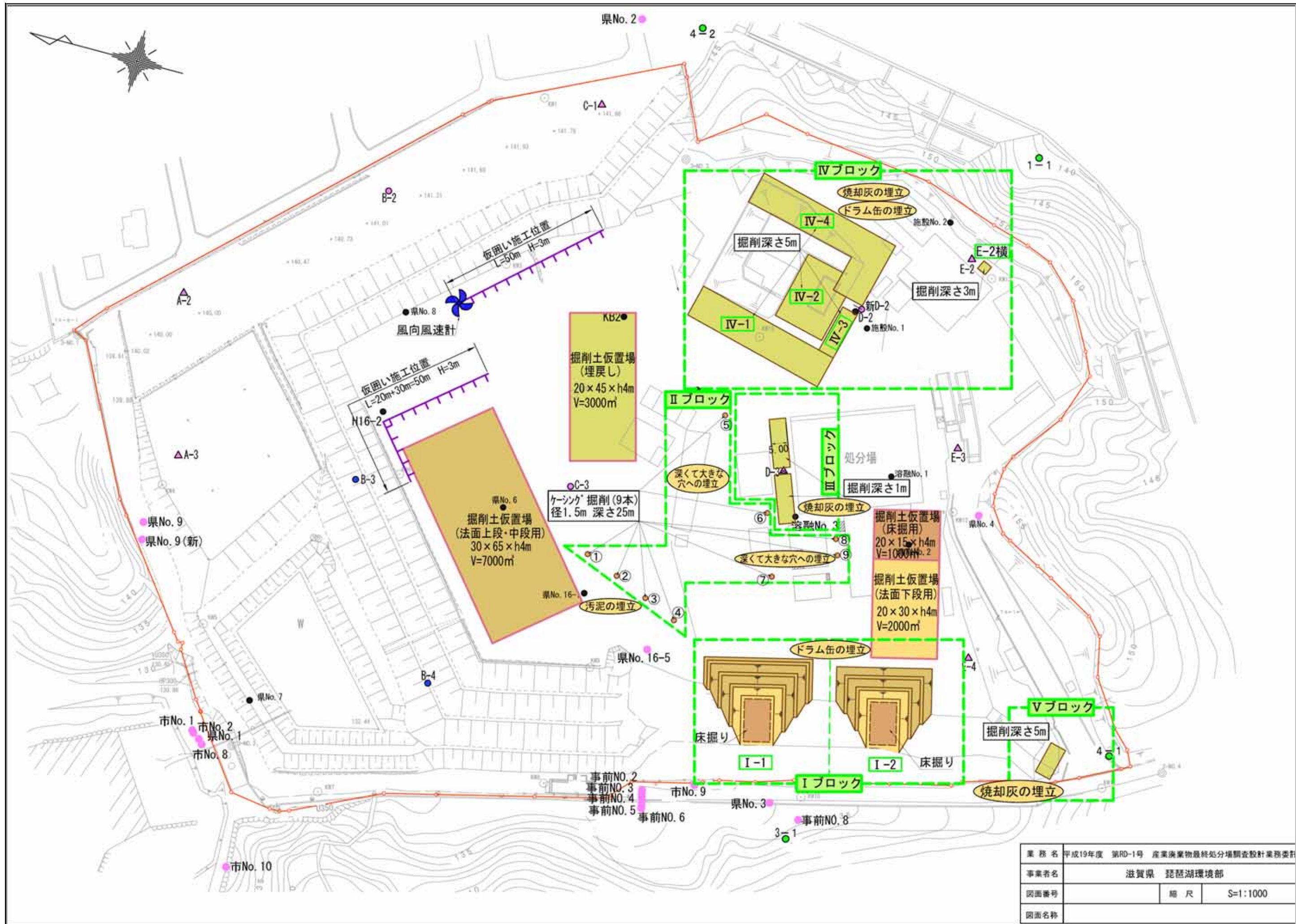
平成20年 3月

滋賀県琵琶湖環境部最終処分場特別対策室

< 目 次 >

資料 1 . 掘削調査状況報告（速報）
（平成 20 年 3 月 11 日まで）

1 .	ブロックの調査状況	- 4 -
2 .	ブロックの調査状況	- 7 -
3 .	ブロックの調査状況	-10-
4 .	ブロックの調査状況	-11-
5 .	ブロックの調査状況	-16-



業務名	平成19年度 第RD-1号 産業廃棄物最終処分場調査設計業務委託		
事業者名	滋賀県 琵琶湖環境部		
図面番号	縮尺	S=1:1000	
図面名称			

掘削計画平面図

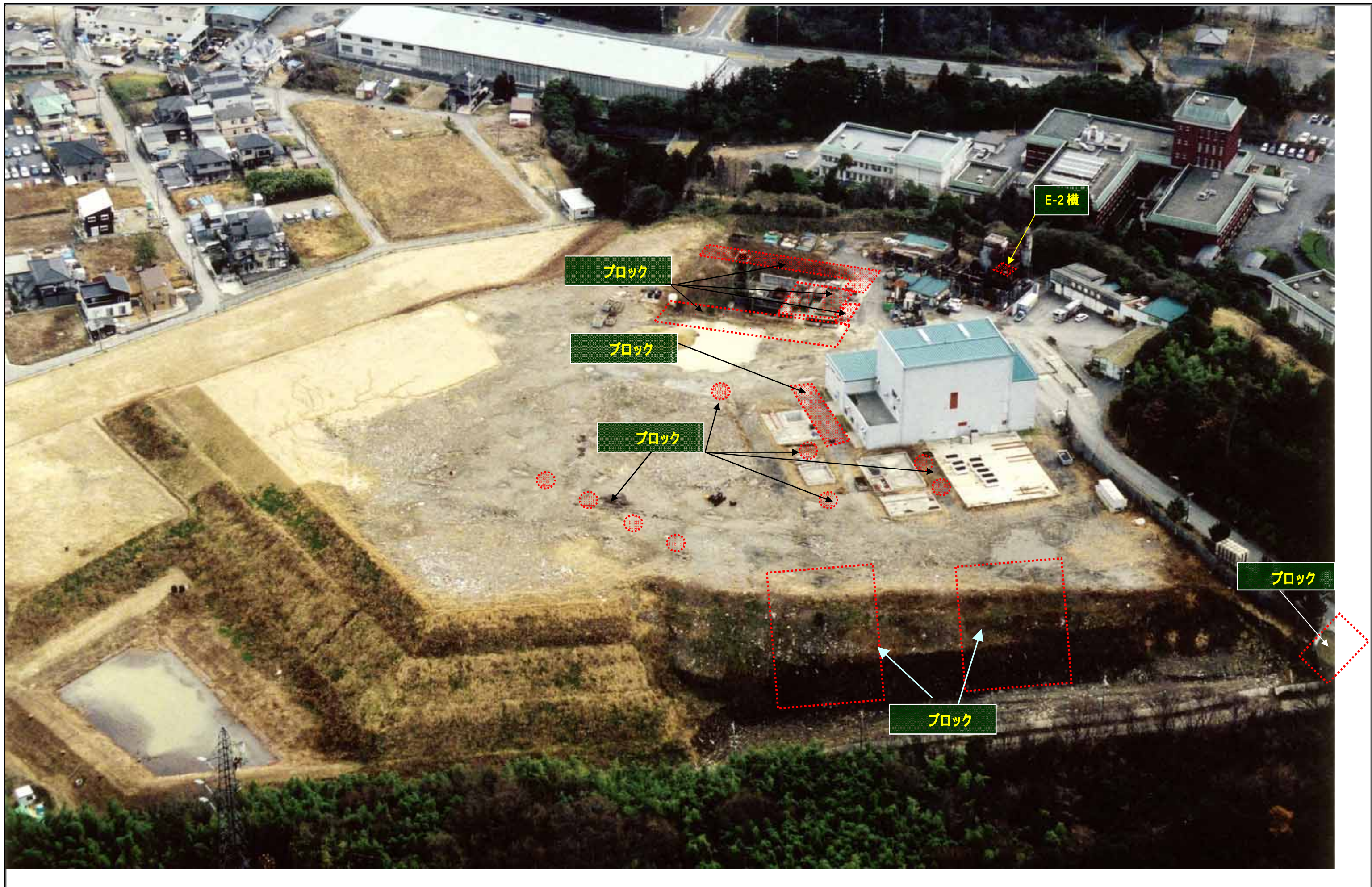
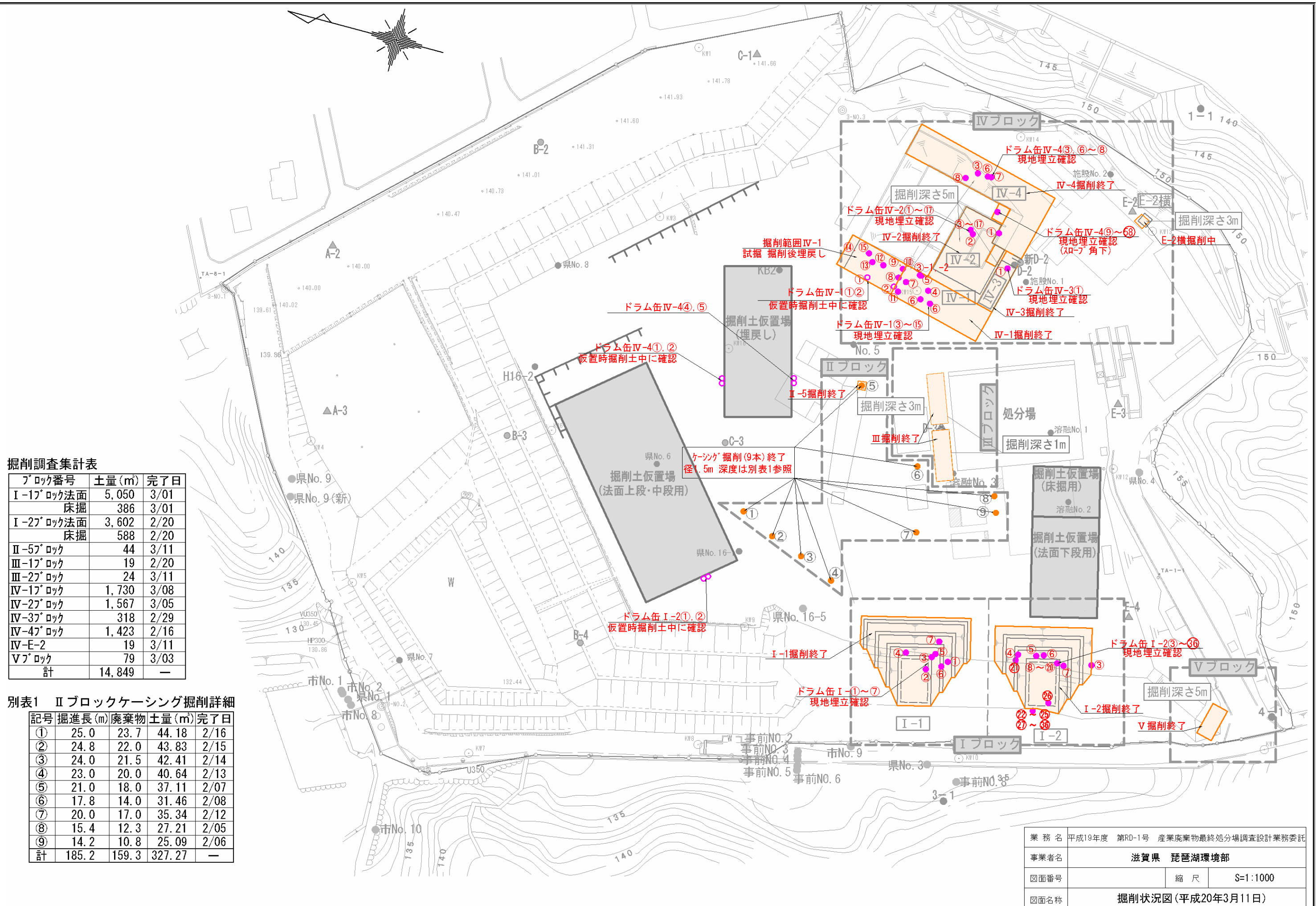


写真1 掘削調査箇所位置



掘削調査集計表

ブロック番号	土量 (m ³)	完了日
I-1 ⁷ ロック法面	5,050	3/01
床掘	386	3/01
I-2 ⁷ ロック法面	3,602	2/20
床掘	588	2/20
II-5 ⁷ ロック	44	3/11
III-1 ⁷ ロック	19	2/20
III-2 ⁷ ロック	24	3/11
IV-1 ⁷ ロック	1,730	3/08
IV-2 ⁷ ロック	1,567	3/05
IV-3 ⁷ ロック	318	2/29
IV-4 ⁷ ロック	1,423	2/16
IV-E-2	19	3/11
V ⁷ ロック	79	3/03
計	14,849	—

別表1 IIブロックケーシング掘削詳細

記号	掘進長 (m)	廃棄物	土量 (m ³)	完了日
①	25.0	23.7	44.18	2/16
②	24.8	22.0	43.83	2/15
③	24.0	21.5	42.41	2/14
④	23.0	20.0	40.64	2/13
⑤	21.0	18.0	37.11	2/07
⑥	17.8	14.0	31.46	2/08
⑦	20.0	17.0	35.34	2/12
⑧	15.4	12.3	27.21	2/05
⑨	14.2	10.8	25.09	2/06
計	185.2	159.3	327.27	—

業務名	平成19年度 第RD-1号 産業廃棄物最終処分場調査設計業務委託		
事業者名	滋賀県 琵琶湖環境部		
図面番号	縮尺	S=1:1000	
図面名称	掘削状況図(平成20年3月11日)		

掘削調査状況平面図(平成20年3月11日)

1. ブロックの調査状況

ブロックは、-1が3月1日に床掘掘削まで完工して5,436.4 m³を掘削し、-2が2月20日に床掘掘削までを完工して4,189.7 m³を掘削した。ブロック全体としては9,626 m³を掘削した。各ブロックの掘削量は左の表1.1に示すとおりである。

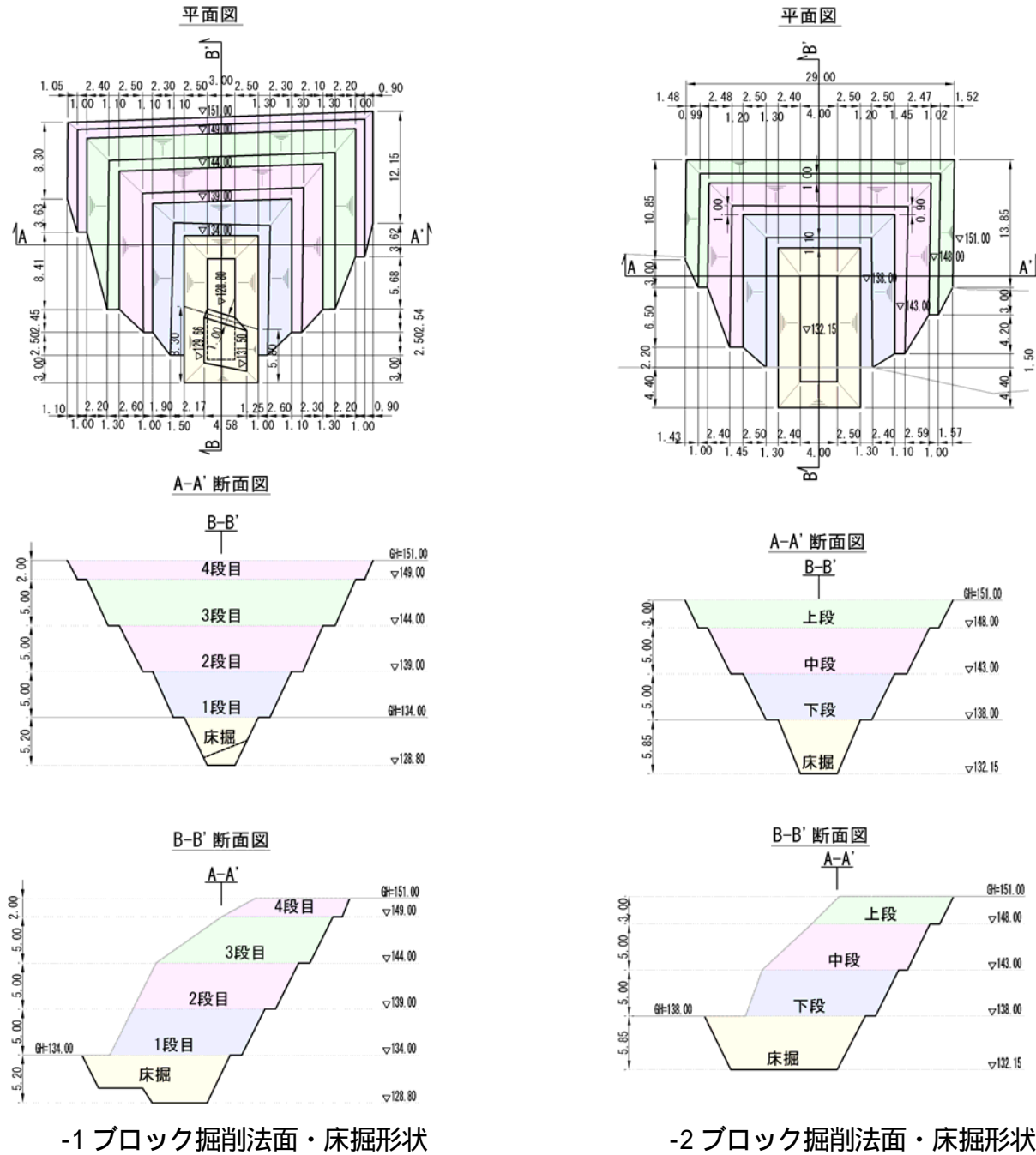


図 1.1 ブロック掘削法面・床掘形状

(1) 廃棄物の種類等

土砂のほか確認された廃棄物としては、主にコンクリート片、金属類、プラスチック、ビニールなどが確認された。

表 1.1 掘削量の内訳表

-1 ブロック		-2 ブロック	
掘削部位	掘削量[m ³]	掘削部位	掘削量[m ³]
4段目	741.9	上段	1,077.2
3段目	1,890.7	中段	1,516.6
2段目	1,511.0	下段	1,008.4
1段目	906.8	床掘り	587.5
床掘り	386.0	合計	4,189.7
合計	5,436.4		
		ブロック合計 9,626.1	

(2) ドラム缶等の確認状況

他、ドラム缶などの異物については次のとおりである。

1) ドラム缶 : -1で9個、-2で36個を確認した。

ドラム缶は個数が多く、順次発見された順に固有の を割り当て屋内移動後、内容物を確認している。

-1の ~ は、中段の掘削時に確認された。仮 と仮 は仮置場より確認された。

-2の と は中段の掘削後、当該廃棄物土を仮置場に移動し雑物除去等の作業時に確認された。 は上段の掘削時に確認された。 ~ は下段の掘削時、 ~ 36は床掘時に確認された。

内容物の内訳は5の表1.2と表1.3に示す。

なお、ホームページ上で公開している速報と異なるものも一部にある。これは公開データが掘削作業中の観察結果でドラム缶の外側から付着物や臭気等を確認してのものであり、本とりまとめデータは屋内に移動後、開缶して内容物を目視確認したものであることに相違がある。

2) コンデンサ : -2の上段を掘削している際、複数種のコンデンサが24リットル容の箱で約4箱分が埋められていることを確認した。

このコンデンサは型番が判読できるものはメーカーに問い合わせし、PCBの含有がないことを確認した。

3) 白い固形物 : -2の上段を掘削している際、白い固形物(10kg袋が10袋以上)を確認した。現地でpH値を測定をしたところ、一部がpH値11を示した。この白い固形物は分析の結果、重曹であることが判明した。



写真 1.1 コンデンサ (PCB含有なし)



写真 1.2 白い固形物 (重曹)



写真 1.3 -1 ドラム缶



写真 1.4 -1 ドラム缶



写真 1.5 -2 ドラム缶



写真 1.6 -2 ドラム缶



写真 1.7 -2 ドラム缶 ~



写真 1.8 -2 ドラム缶³⁰

表1.2 -1におけるドラム缶内容物の内訳表

掘削日	固有	内容物	掘削日	固有	内容物
2.21	1	(確認中)	2.25	6	(確認中)
2.21	2	(確認中)	2.26	7	(確認中)
2.22	3	(確認中)	3.11	仮 1	空
2.22	4	(確認中)	3.11	仮 2	空
2.25	5	(確認中)			

注) : 内容物性状を視認し推定した内容物を示す。

表1.3 -2におけるドラム缶内容物の内訳表

掘削日	固有	内容物	掘削日	固有	内容物
2.06	1	空	2.15	19	鉋さい
2.06	2	空	2.15	20	空
2.14	3	塗料	2.16	21	コールタール状
2.14	4	コールタール状	2.19	22	空
2.14	5	空	2.19	23	空
2.14	6	コンクリート系汚泥	2.19	24	空
2.15	7	空	2.19	25	空
2.15	8	空	2.20	26	コールタール状
2.15	9	空	2.20	27	空
2.15	10	空	2.20	28	コールタール状
2.15	11	空	2.20	29	コールタール状
2.15	12	空	2.20	30	コールタール状
2.15	13	鉋さい	2.20	31	コールタール状
2.15	14	鉋さい	2.20	32	空
2.15	15	鉋さい	2.20	33	コールタール状
2.15	16	鉋さい	2.20	34	空
2.15	17	鉋さい	2.20	35	空
2.15	18	鉋さい	2.20	36	コールタール状

注) : 内容物性状を視認し推定した内容物を示す。

掘削時の外観から推察した公表データと相違があるものは で明示した。

2. ブロックの調査状況

ブロックでは、ケーシング掘削を2月5日より開始し2月16日にまでに予定の ~ の9箇所の調査すべてを終了した。本調査では、3m毎に採取した廃棄物の観察とケーシング孔内のガスの測定を実施した。

(1) 廃棄物の種類等

確認した廃棄物は、8頁の表2.2に示す。

全9孔のケーシング掘削で一様に認められる廃棄物は、既往調査と同様に土砂のほか、コンクリート片、金属類、プラスチック、ビニール、木片などが確認された。

許可品目外の金属類、木片の混入は全9孔で確認された。

~ は汚泥の埋め立てが疑わしいとされたところであるが、汚泥らしき廃棄物は視認できなかった。

なお、では、深度2~5mで油臭(タール臭)の強い廃棄物が確認された。

(2) ケーシング 周辺の拡大掘削調査

上述したとおり、ケーシング では深度2~5mにおいて油臭(タール臭)の強い廃棄物が確認されたため、当該地点の周辺についてバックホーによりトレンチ状に深度5mまで掘削調査を行った。

掘削の形状は、図2.1に示す。約44m³の掘削により、写真2.1に示す油状の廃棄物が確認されたためコンクリートの上においてシートで養生し、仮置きを行った。



写真2.1 ケーシング 周辺の掘削調査で確認した廃棄物

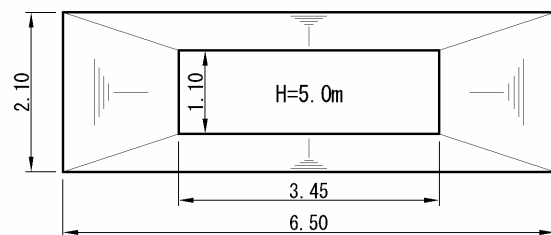


図2.1 ケーシング 周辺の掘削形状

床掘土量

下面面積 $A=1.10 \times 3.45=3.795$ (m²)
 上面面積 $A=2.10 \times 6.50=13.65$ (m²)
 掘削深 $H=5.00$ (m)
 土量 $V=(3.795+13.65)/2 \times 5.00=43.61$ (m³)

(3) 有害ガス等測定結果

表2.1に硫化水素等の有害ガス測定結果を示す。

可燃性ガスは、 、 、 および の5孔で確認され、その濃度範囲は0.00~0.10%であった。

硫化水素は全9孔で確認され、その濃度範囲は0.0~2.0ppmであった。

二酸化炭素は全9孔で確認され、その濃度範囲は0.00~0.25%であった。

アンモニアは、 、 および の3孔で確認され、その濃度範囲は0.0~0.35ppmであった。

揮発性有機化合物は、全9孔で不検出であった。

表2.1 有害ガス等の測定結果

測定日時	深度 [m]	酸素 [%]	有害ガス				揮発性有機化合物				孔内温度 []	気温 []
			可燃性ガス [%]	硫化水素 [ppm]	二酸化炭素 [%]	アンモニア [ppm]	トリクロロエチレン [ppm]	1,2-ジクロロエチレン [ppm]	テトラクロロエチレン [ppm]	ベンゼン [ppm]		
ケーシング孔 - : 平成20年2月16日												
10:21	3.00	20.6	0.00	1.5	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	12.1	5.0
10:52	6.00	20.8	0.00	1.5	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	18.0	6.0
11:13	9.00	21.0	0.00	0.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	22.5	10.0
11:41	12.00	20.9	0.00	0.5	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	23.6	11.0
13:21	15.00	20.8	0.00	1.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	23.2	8.0
13:52	18.00	20.7	0.00	0.5	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	22.3	7.0
14:39	19.00	20.8	0.00	1.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	26.7	7.0
ケーシング孔 - : 平成20年2月15日												
10:13	3.00	20.8	0.00	1.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	12.8	9.0
10:47	6.00	20.9	0.00	0.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	14.7	6.0
11:12	9.00	20.8	0.05	1.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	18.4	7.0
11:45	12.00	21.0	0.00	0.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	22.5	15.0
13:27	15.00	20.8	0.00	0.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	28.0	10.0
14:02	18.00	21.0	0.00	0.5	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	24.3	14.0
14:49	19.00	20.7	0.00	1.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	28.8	9.0
ケーシング孔 - : 平成20年2月14日												
9:23	3.00	21.0	0.10	2.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	4.3	4.0
9:57	6.00	20.7	0.00	1.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	14.2	4.0
10:21	9.00	20.9	0.10	1.0	0.20	0.0	ND	ND	ND	ND	14.2	5.0
10:55	12.00	21.0	0.00	1.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	21.0	6.0
11:25	15.00	20.7	0.05	0.5	0.15	0.0	ND	ND	ND	ND	25.1	5.0
13:20	18.00	20.7	0.05	2.0	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	26.2	8.0
14:15	19.00	20.6	0.00	1.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	29.6	12.0

表2.1 有害ガス等の測定結果

測定日時	深度 [m]	酸素 [%]	有害ガス				揮発性有機化合物				孔内温度 []	気温 []
			可燃性ガス [%]	硫化水素 [ppm]	二酸化炭素 [%]	アンモニア [ppm]	トリクロロ エチレン [ppm]	1,2-ジクロロ エチレン [ppm]	テトラクロロ エチレン [ppm]	ベンゼン [ppm]		
ケーシング孔 - : 平成 20 年 2 月 12 日 ~ 13 日												
14:42	3.00	20.8	0.00	0.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	12.7	9.0
16:10	6.00	20.8	0.00	0.5	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	18.4	7.0
9:15	9.00	20.7	0.00	1.0	0.15	0.0	ND	ND	ND	ND	22.5	3.0
9:55	12.00	20.7	0.00	2.5	0.15	0.0	ND	ND	ND	ND	21.9	2.0
10:32	15.00	20.5	0.05	1.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	28.5	3.0
11:06	18.00	20.7	0.00	0.5	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	26.4	7.0
11:51	19.00	20.8	0.00	0.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	27.2	7.0
ケーシング孔 - : 平成 20 年 2 月 7 日												
10:27	3.00	20.8	0.00	1.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	9.0	6.0
11:00	6.00	20.9	0.00	0.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	11.1	9.0
11:22	9.00	21.0	0.00	0.0	0.20	0.0	ND	ND	ND	ND	20.5	8.0
11:54	12.00	21.0	0.00	0.0	0.15	0.5	ND	ND	ND	ND	20.1	8.0
13:23	15.00	20.5	0.00	0.0	0.20	1.0	ND	ND	ND	ND	16.1	10.0
13:57	16.00	20.8	0.10	1.0	0.10	1.0	ND	ND	ND	ND	18.5	7.0
ケーシング孔 - : 平成 20 年 2 月 8 日												
10:42	3.00	21.0	0.00	0.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	9.8	6.0
11:29	6.00	21.0	0.00	0.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	15.0	6.0
11:50	9.00	20.7	0.00	0.5	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	16.7	9.0
13:31	12.00	21.0	0.00	0.5	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	17.8	8.0
14:09	15.00	20.8	0.00	0.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	16.2	8.0
14:47	17.80	21.0	0.00	0.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	19.6	7.0
ケーシング孔 - : 平成 20 年 2 月 9 日 ~ 12 日												
10:12	3.00	21.0	0.00	0.0	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	6.3	2.0
10:57	6.00	20.6	0.00	1.5	0.15	0.0	ND	ND	ND	ND	5.9	2.0
11:27	9.00	20.7	0.00	1.5	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	13.9	2.0
09:19	12.00	20.5	0.00	0.5	0.20	0.0	ND	ND	ND	ND	16.4	7.0
09:54	15.00	20.3	0.00	1.5	0.25	0.0	ND	ND	ND	ND	19.2	7.0
10:32	18.00	20.4	0.00	1.0	0.15	0.0	ND	ND	ND	ND	20.1	7.0
11:19	20.00	20.6	0.00	0.5	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	20.6	7.0
ケーシング孔 - : 平成 20 年 2 月 5 日												
11:28	3.00	21.0	0.00	1.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	10.5	7.5
12:05	6.00	20.9	0.00	0.5	0.05	0.0	ND	ND	ND	ND	13.6	7.5
13:40	9.00	21.0	0.05	0.5	0.00	3.5	ND	ND	ND	ND	14.7	7.5
14:20	12.00	20.8	0.00	0.0	0.10	3.5	ND	ND	ND	ND	19.4	7.0
15:21	15.35	21.0	0.00	0.0	0.05	2.0	ND	ND	ND	ND	18.7	9.0
ケーシング孔 - : 平成 20 年 2 月 6 日												
9:57	3.00	21.0	0.00	0.5	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	7.5	4.0
10:34	6.00	21.0	0.00	1.5	0.10	1.0	ND	ND	ND	ND	11.7	8.0
10:50	9.00	21.0	0.00	0.0	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	13.0	8.0
11:40	12.00	20.7	0.00	0.0	0.00	0.0	ND	ND	ND	ND	16.7	10.0
13:41	14.20	21.0	0.00	0.0	0.10	0.0	ND	ND	ND	ND	15.7	9.0

表 2.2 ケーシング掘削における廃棄物の種類（外観を視認）

ケーシング掘地点 深度	【廃棄物埋立深さ 21.5m】	【廃棄物埋立深さ 22.0m】	【廃棄物埋立深さ 21.5m】	【廃棄物埋立深さ 22.0m】	【廃棄物埋立深さ 18.0m】	【廃棄物埋立深さ 14.0m】	【廃棄物埋立深さ 17.0m】	【廃棄物埋立深さ 12.3m】	【廃棄物埋立深さ 10.8m】	
深度 0 ～ 3m	土砂、ビニール、コンクリートガラ、タイル片、レンガ片、瓦片、木片、廃プラスチック、コンクリートブロック	土砂、木片、鉄くず、ブルーシート、プラスチック片、タイヤ、鉄筋、レンガ片、瓦片	土砂、プラスチック片（細断した塊）、ビニール片、レンガ片、コンクリートガラ、紙くず、瓶、木くず、鉄筋	土砂、発泡スチロール、ビニール片、銅線、プラスチック片、鉄くず、合板、ガラス片、蛇腹ホース、ゴム片、水道管、コンクリートガラ、木片	土砂、ビニール（塊）、プラスチック片、タール（粘性少）、ブロック、木片、鉄筋、コンクリートガラ、ゴム、銅線、ボリングの玉	レンガ片、ビニール片、コンクリートガラ、鉄くず、塩ビ片、銅線、鉄筋、木片、タイヤ、ブルーシート、短管、ビニール紐、ガラ（多し）	木片、コンクリートガラ、土砂、レンガ片、ゴム片、瓦片、鉄くず、土嚢袋、ビニール片、鉄筋、タイル片	土砂、コンクリートガラ、鉄くず、プラスチック、ゴム	土砂、コンクリートガラ、鉄筋、ビニール片、木片、紙くず、塩ビ管、プラスチック、ゴム	
深度 3 ～ 6m	土砂、ビニール、コンクリートガラ、タイル片、レンガ片、瓦片、木片、廃プラスチック、コンクリートブロック、6m付近において注射器	土砂、ビニール片、紙類、コンクリートガラ、プラスチック片、ガラス片、コンクリートガラ、コンクリートブロック、白く脆い固形物	土砂、衣類（肌着）、ビニール片、ガラ、木片、塩ビ管、レンガ片、蛇腹ホース	石膏ボード片、ビニール片、木片、ゴムシート、プラスチック片、コンクリートガラ、空缶、鉄筋、竹、カーペット、銅線	土砂、塩ビ管、ビニール類、プラスチック片、木片、タール（粘性少）、タイル片、銅線、金属片	木片、ビニール片、タイヤ、コンクリート塊（1m大）レンガ片、塩ビ片、ビニール紐	土砂、断熱材、木片、PP ロープ、鉄くず、瓦片、ビニール片、ガラ、塩ビパイプ、ゴム	コンクリート片、紙くず、鉄くず、瓦片、金属類	紙くず、鉄筋、ビニール、ブロック、タイル、瓦片、空き缶、コンクリート片、発泡スチロール、断熱材、金属類	
深度 6 ～ 9m	土砂、ビニール（多し）、コンクリートガラ、タイル片、レンガ片、瓦片、木片、廃プラスチック、コンクリートブロック、暗茶褐粘土	コンクリートガラ、木片、土砂塊（ガラ混じる砂質シルト）、ビニール片、瓦片、スレート片（廃棄物が全体に少ない）	土砂、プラスチック片、ビニール片、コンクリートガラ、紙くず、ゴムホース、ブロック、木片、空缶、薬瓶、レンガ片、ガスホース、瓦片、タイル片、鉄筋コンクリートガラ	ビニール（肥料袋）、瓶、ゴム片、木片、鉄くず、タイル	ゴム、発泡スチロール、木片、コンクリートガラ、金属くず、ビニール	レンガ片、ビニール片、コンクリートガラ、ゴム片、木片、プラスチック類、銅線、土管（40cm大）	土砂、断熱材、木片、PP ロープ、鉄くず、瓦片、ビニール片、ガラ、塩ビパイプ、ゴム、布類	木くず、紙くず、ビニール片、ゴム、コンクリートガラ、プラスチック、レンガ片	レンガ片、ビニール片、ゴム、木くず、紙くず、コンクリートガラ（25cm程度の柱状）、プラスチック	
深度 9 ～ 12m	土砂、鉄くず、コンクリートガラ、木片、塩ビ片、ビニール片、レンガ片	土砂、瓦片、ビニール片（多し）、コンクリートガラ、鉄くず、木片、ブロック、破碎したアスファルト、タイル片	土砂、木片、レンガ片、ビニール片、コンクリートガラ、タイヤ片、ブロック、鉄筋	ビニール、瓶、ダンボール紙片、ブルーシート、木片	ビニール、波板、木片、土嚢袋、コンクリートガラ、タイヤ（ホイール付）、発泡スチロール	プラスチック片、レンガ片、ガラ、ビニール片、縄、発泡スチロール、木片	コンクリートガラ（40cm大）瓶、ビニール、木片、ゴム、鉄くず、銅線、レンガ片	木くず、ビニール、紙くず、レンガ、コンクリートガラ、プラスチック片、ビニール	コンクリートガラ、軽量コンクリート、木くず、縄、ビニール、紙くず、レンガ ----- 深度 10.8mにおいて地山を確認し、深度 14.2mにて掘止めとする。	
深度 12 ～ 15m	土砂、ビニール（多し）、コンクリートガラ、プラスチック片、木片、鉄線、ロール状のビニール	土砂、ビニール片、ガラス瓶、木片、プラスチック類、コンクリートガラ、ブルーシート、タイル片、鉄筋	土砂、プラスチック板、ビニール片、木片、コンクリートガラ、ビニール紐	ビニール片、タイヤ片、ゴム片、プラスチック片、レンガ片、ビニール紐、瓦片	ビニール片、プラスチック片、木片、レンガ片、鉄くず、金属片、タイル、コンクリートブロック	ガラ、コンクリートガラ、ビニール片、木片、紙類、プラスチック片、レンガ片、紙類 ----- 深度 14.0mにおいて地山を確認し、深度 17.8mにて掘止めとする。	コンクリートガラ（40cm大）瓶（多し）、ビニール、木片、ゴム、鉄くず、銅線、紙類	コンクリートガラ、木くず、ビニール、紙くず、レンガ ----- 深度 12.3mにおいて地山を確認し、深度 15.35mにて掘止めとする。		
深度 15 ～ 18m	土砂、ビニール（多し）、コンクリートガラ、プラスチック片、木片、鉄線、ロール状のビニール	ガラ（多し）、レンガ片、瓦片、紙類、ビニール片、紐、木片、電柱の碍子、	土砂、プラスチック板、ビニール片、木片、コンクリートガラ、ビニール紐、鉄板	土砂、ビニール片、ビニール紐、銅線、タイヤ、ゴム、木片、レンガ片、瓦片、鉄くず	ビニール片、木片、銅線、布切れ、コンクリートガラ、プラスチック片、樹脂状Pの固形物、紙類 ----- 深度 18.0mにおいて地山を確認し、深度 21.0mにて掘止めとする。		鉄くず、ガラ、ビニール片、木片（多し） ----- 深度 17.0mにおいて地山を確認し、深度 20.0mにて掘止めとする。			
深度 18 ～ 21m	ガラ（多し）、鉄筋、既製杭	ガラ（多し）、レンガ片、瓦片、紙類、ビニール片、紐、木片	土砂、プラスチック板、ビニール片、木片、コンクリートガラ、ビニール紐、深度 21m鉄板	コンクリートブロック、銅線、木片、鉄筋、瓦片、ビニール片、ロール状のビニール ----- 深度 20.0mにおいて地山を確認し、深度 23.0mにて掘止めとする。						
深度 21 ～ 24(25)m	ガラ、鉄筋 ----- 深度 21.5mにおいて地山を確認し、深度 25.0mにて掘止めとする。	ガラ（多し）、レンガ片、瓦片、紙類、ビニール片、紐、木片 ----- 深度 22.0mにおいて地山を確認し、深度 24.8mにて掘止めとする。	深度 21.5mにおいて地山を確認し、深度 24.0mにて掘止めとする。							
採水時データ	掘進深度 孔内水位 pH 電気伝導率 水温 色 臭気	深度 21.0m 深度 19.5m 10.6 135 mS/m 24.7 暗黒灰 油臭（少）	深度 21.0m 深度 19.5m 10.5 151 mS/m 25.3 暗茶褐 油臭（少）	深度 21.0m 深度 19.8m 10.8 133 mS/m 25.5 黒褐 油臭（少）	深度 21.0m 深度 19.8m 8.4 166 mS/m 25.1 黒褐 硫化水素臭	深度 18.0m 深度 16.2m 7.6 160 mS/m 19.9 黒褐 硫化水素臭	孔内水が認められず、採水不可。	孔内水が認められず、採水不可。	孔内水が認められず、採水不可。	孔内水が認められず、採水不可。

3. ブロックの調査状況

ブロックは、平成19年8月の県D-3のボーリング調査で焼却灰が確認されたため、当該焼却灰の分布を把握する目的で実施した。

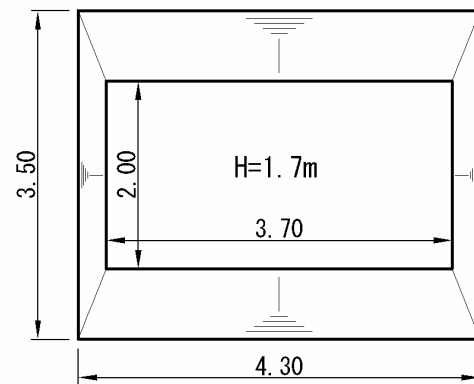
県D-3の西側(-1)は2月20日に、東側(-2)は3月11日に掘削調査を実施し、ブロックの合計では42.7 m³を掘削した。

その状況を以下に示す。

表 3.1 掘削量の内訳表

-1(西) 掘削量[m ³]	-2(東) 掘削量[m ³]
19.1	23.6
ブロック合計 42.7	

Ⅲ-1(西)



Ⅲ-2(東)

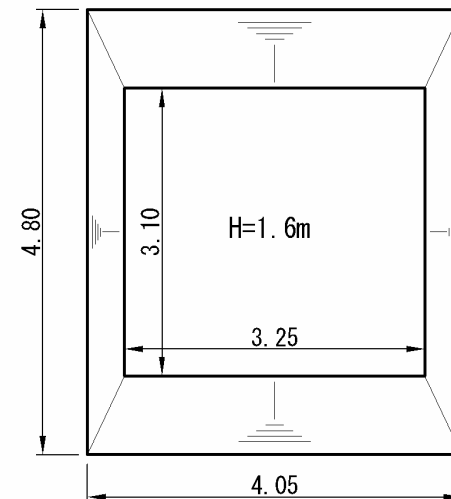


図 3.1 ブロック 掘削形状

焼却灰が確認された県D-3地点より西側1mより掘削開始したが、焼却灰は確認されなかった。このため、県D-3地点へさらに0.5m近づいて掘削したところ、灰白色の切削クズが確認された(赤丸の範囲)。



写真 3.3 -1(西) 切削クズの埋立て状況



写真 3.4 -1(東) 切削クズの埋立て状況



写真 3.5 切削くずの拡大< -1(西) >



写真 3.6 切削クズ中の建材



写真 3.1 -1(西) 掘削状況全景



写真 3.2 -2(東) 掘削状況全景

写真 3.5 に切削くずの範囲を拡大したものを示す。約 1 m の円状に切削クズが厚さ 5 cm 程度で混入していた。また、東側でも県 D-3 地点近傍は同様の切削クズが確認された。

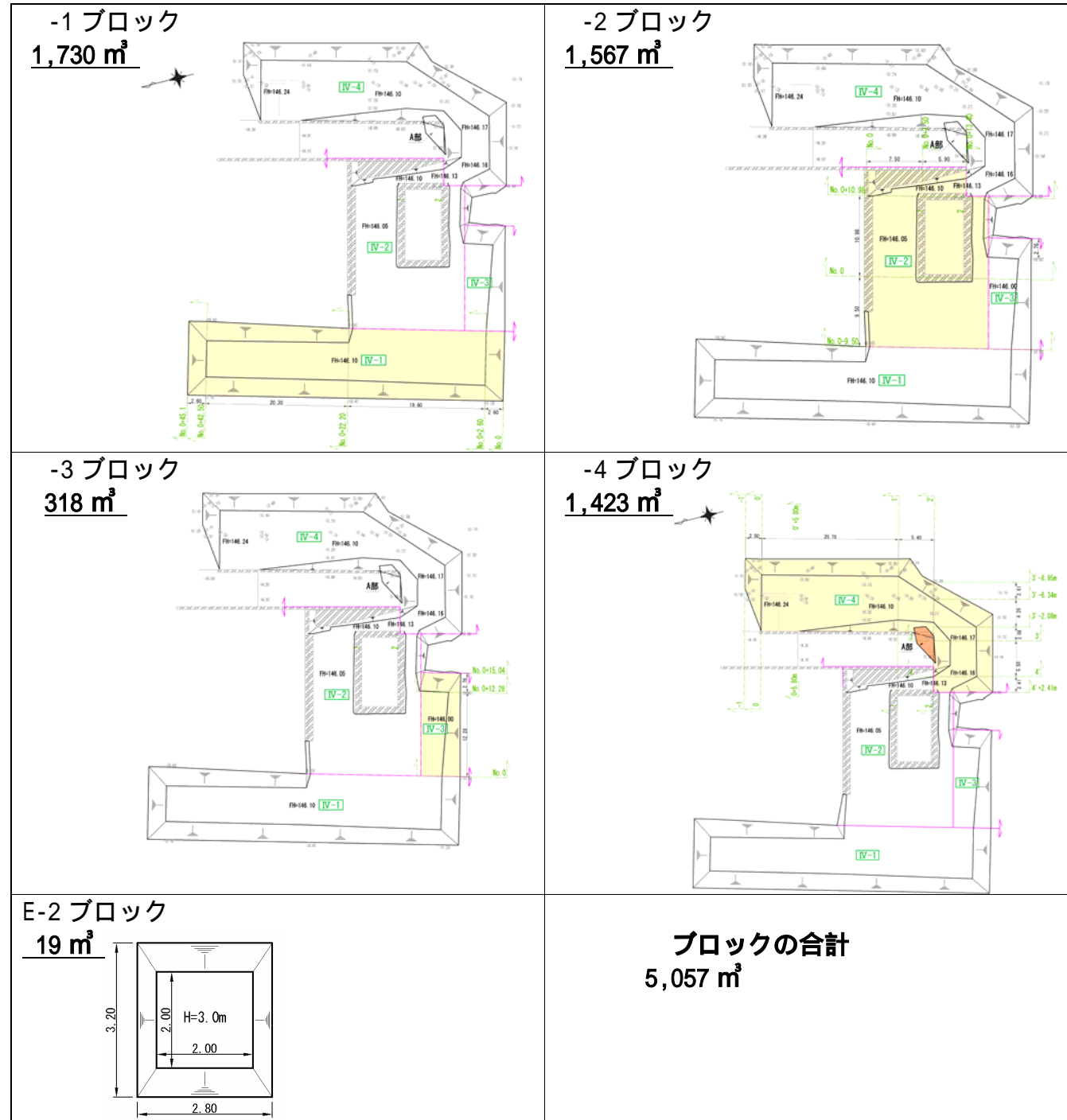
西側の -1 は、切削くずの中に一部建材の破砕物のようなものが確認された。この破砕物について取り出して撮影した写真を写真 3.6 に示す。この破砕物は壁材と推定され、同ブロックで確認された切削くずは建材の研磨くずと考えられる。

4. ブロックの調査状況

ブロックでは、-1～-4の東側焼却炉周辺の4つの小ブロックと県E-2の近傍のE-2ブロックに分割している。

ブロック全体としては試掘(H20.2.4)の80m³を含めると合計で約5,137m³を掘削した。各ブロックの掘削量は、その掘削形状とあわせて表4.1に示すとおりである。

表4.1 掘削量の内訳表



(1) 廃棄物の種類等

土砂のほか確認された廃棄物としては、主にコンクリート片、金属類、プラスチック、ビニールなどが確認された。雑物作業において確認したこれら廃棄物を以下に示す。

なお、E-2ブロックは焼却灰の埋め立てが疑われた場所であったが、焼却灰の埋め立ては確認できなかった。



写真4.1 -1 木材(柱 L=3.1m)



写真4.2 -2 ホイール付タイヤ



写真4.3 -3 オイルエレメント



写真4.4 -4 コンクリートガラ



写真4.5 E-2ブロックの掘削完了後

(2) ドラム缶等の確認状況

他、ドラム缶などの異物については次のとおりである。

- 1) 金属くず : -1 では、試掘した箇所について金属くず（鉄筋塊）が集中して埋め立てられていた（写真 4.6 および写真 4.7 参照）。



写真 4.6 -1 試掘(掘削状況)



写真 4.7 -1 掘出された鉄筋塊

- 2) 医療系廃棄物 : -1 と -4 では、医療系廃棄物が集中して埋め立てられていた。医療系廃棄物の埋め立て状況と、掘り出された医療系廃棄物を以下に示す。



写真 4.8 -1 医療系廃棄物の埋め立て状況



写真 4.9 -1 取り出した医療系廃棄物



写真 4.10 -4 医療系廃棄物の埋め立て状況



写真 4.11 -4 取り出した医療系廃棄物

3) ドラム缶 : -1で16個、-2で17個、-3で1個および-4で61個の総計95個が確認された。

その内容物の内訳は表4.2に示す。

表4.2(1) -1 ドラム缶内容物の内訳表

掘削日	固有	内容物	掘削日	固有	内容物
2.4	1	コンクリート	3.6	8	(確認中)
2.4	2	空	3.6	9	(確認中)
3.4	3-(1)	(確認中)	3.6	10	(確認中)
3.4	3-(2)	(確認中)	3.7	11	(確認中)
3.4	4	(確認中)	3.7	12	(確認中)
3.6	5	(確認中)	3.8	13	(確認中)
3.6	6	(確認中)	3.8	14	(確認中)
3.6	7	(確認中)	3.8	15	(確認中)

注) : 内容物性状を視認し推定した内容物を示す。

表4.2(2) -2 ドラム缶内容物の内訳表

掘削日	固有	内容物	掘削日	固有	内容物
2.29	1	(確認中)	3.1	10	(確認中)
3.1	2	(確認中)	3.1	11	(確認中)
3.1	3	(確認中)	3.1	12	(確認中)
3.1	4	(確認中)	3.1	13	(確認中)
3.1	5	(確認中)	3.1	14	(確認中)
3.1	6	(確認中)	3.1	15	(確認中)
3.1	7	(確認中)	3.1	16	(確認中)
3.1	8	(確認中)	3.1	17	(確認中)
3.1	9	(確認中)			

注) : 内容物性状を視認し推定した内容物を示す。

表4.2(3) -3 ドラム缶内容物の内訳表

掘削日	固有	内容物
2.27	1	(確認中)

注) : 内容物性状を視認し推定した内容物を示す。

表4.2(4) -4 ドラム缶内容物の内訳表

掘削日	固有	内容物	掘削日	固有	内容物
2. 4	1	塗料かす	2.15	32	コールタール状
2. 4	2	空	2.15	33	コールタール状
2. 5	3	コールタール状・ゴミ	2.15	34	空
2. 5	4	コールタール状	2.15	35	空
2. 5	5	コールタール状	2.15	36	空
2. 5	6	コンクリート	2.15	37	空
2. 5	7	コールタール状	2.15	38	コールタール状
2.14	8	空	2.15	39	空
2.15	9	コールタール状	2.15	40	コールタール状
2.15	10	コールタール状	2.15	41	空
2.15	11	コールタール状	2.15	42	コールタール状
2.15	12	空	2.15	43	コールタール状
2.15	13	空	2.15	44	樹脂系
2.15	14	コールタール状	2.15	45	塗料系
2.15	15	空	2.16	46	空
2.15	16	コールタール状	2.16	47	空
2.15	17	塗料固化物(グレー)	2.16	48	コールタール状
2.15	18	塗料かす	2.16	49	空
2.15	19	コールタール状	2.16	50	塗料系
2.15	20	空	2.16	51	空
2.15	21	空	2.16	52	空
2.15	22	コールタール状	2.16	53	空
2.15	23	コールタール状	2.16	54	コールタール状
2.15	24	コールタール状	2.16	55	樹脂系
2.15	25	樹脂状	2.16	56	空
2.15	26	塗料固化物	2.16	57	コールタール状
2.15	27	空	2.16	58	空
2.15	28	塗料系固化物(赤紫)	3. 8	仮 1	(確認中)
2.15	29	空	3. 8	仮 2	(確認中)
2.15	30	コールタール状	3. 8	仮 3	(確認中)
2.15	31	空			

注) : 内容物性状を視認し推定した内容物を示す。
掘削時の外観から推察した公表データと相違があるものは で明示した。



写真 4.12 -1 ドラム缶



写真 4.13 -1 ドラム缶

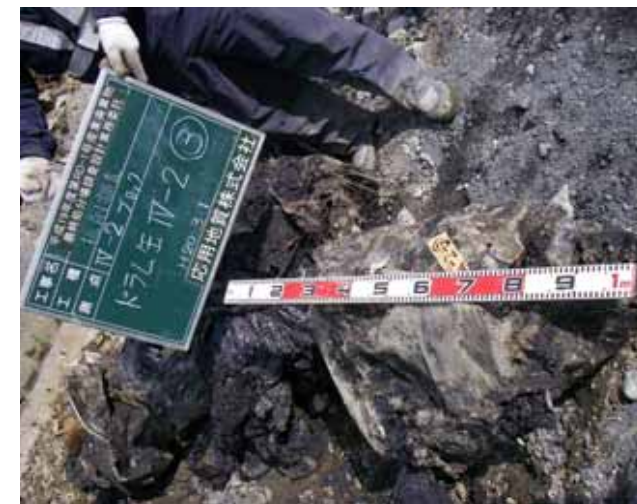


写真 4.14 -2 ドラム缶



写真 4.15 -3 ドラム缶



写真 4.16 -4 ドラム缶

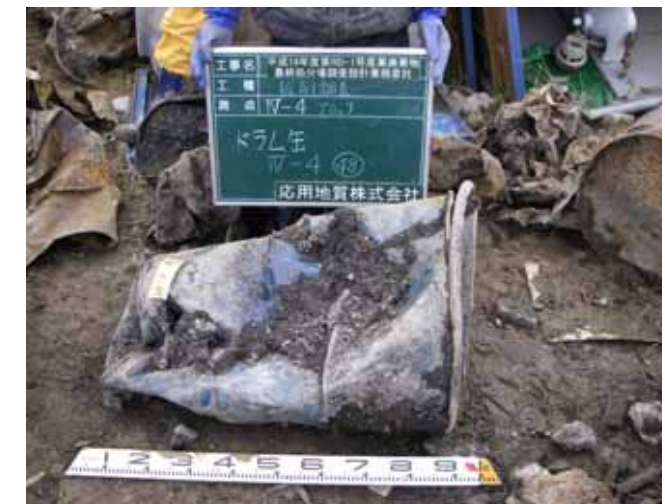


写真 4.17 -4 ドラム缶⁴⁸



平成 20 年 2 月 15 日掘削： -4 ~ スロープ下部 1.0~1.5m



平成 20 年 2 月 15・16 日掘削： -4 ~ 58 スロープ下部 1.0~2.5m



平成 20 年 2 月 15・16 日掘削： -4 ~ 58 スロープ下部 1.0~2.5m



平成 20 年 2 月 15・16 日掘削： -4 ~ 58 スロープ下部 1.0~2.5m
写真 4.18 -4 におけるドラム缶の埋め立て状況

ドラム缶の埋め立て箇所（深度 1.0~2.5m）を
○で囲う。

ドラム缶下はコンクリートガラ
が層状に埋立されている。

5. Vブロックの調査状況

ブロックは、焼却灰の埋め立てが疑わしいとのことからその存在を確認し、焼却灰を認めたときには当該焼却灰の分布を把握する目的で実施した。

Vブロックは、3月3日に79 m³を掘削し調査を実施した。その結果、目視によって焼却灰と判断されるものは認めなかったが、化学試験等により性状を明らかにするため試料採取を行った。

以下にその状況を示す。

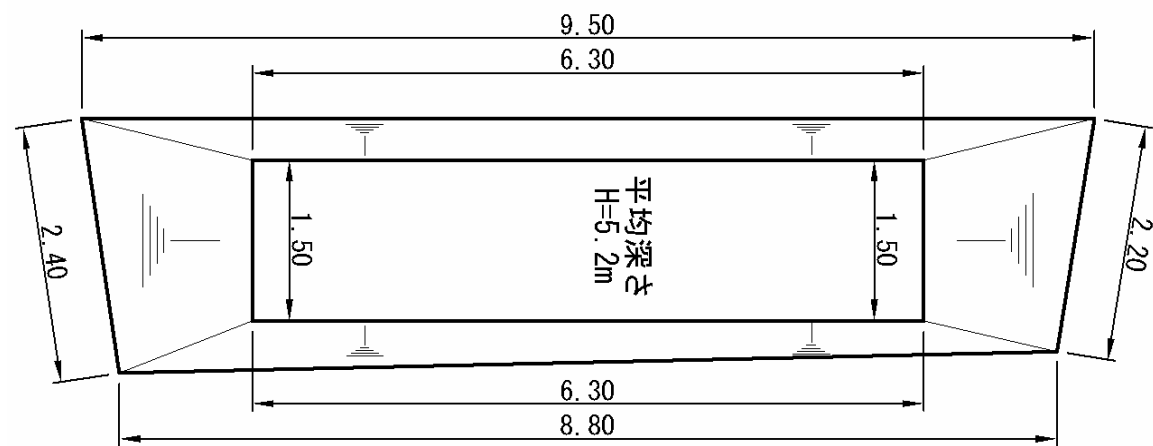


図5.1 ブロック 掘削形状



写真5.3 埋め立て状況



写真5.4 埋立完了・復旧状況



写真5.1 掘削状況



写真5.2 採取試料